

[声を放つ 当事者の証言](#)

1995 年八王子スーパー射殺事件 未解決のまま 7 月末で 28 年...遺族も期待する遺留品の DNA 型の科学捜査

公開日：2023/07/07 17:00 更新日：2023/07/07 17:04

[1995 年八王子スーパー射殺事件 未解決のまま 7 月末で 28 年...遺族も期待する遺留品の DNA 型の科学捜査 | 日刊ゲンダイ DIGITAL \(nikkan-gendai.com\)](#)

<https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/news/325707>

[女性 3 人が射殺されたスーパー「ナンペイ大和田店」=1995 年 7 月、東京都八王子市 \(C\) 共同通信社](#)

1995 年 7 月 30 日、東京都八王子市のスーパー「ナンペイ大和田店」で、パート従業員だった稲垣則子さん（当時 47）、アルバイトの矢吹恵さん（同 17）と前田寛美さん（同 16）が拳銃で射殺された。時効は撤廃されたが、未解決事件となって 28 年を迎える。警察庁は今月 1 日、解決につながる情報を提供した人に支払う公的懸賞金（捜査特別報奨金）の受付期間の延長（1 年間）を決めた。

◇◇◇

事件が起こった 30 日は日曜日で、午後 9 時すぎ。道向かいの公園で夏祭りが終わったところだった。スーパーの閉店後、従業員が外階段を使って売上金を 2 階事務所に運び金庫に納め、帰ろうとしたところに何者かが押し入った。金庫に納められた売上金は持ち去られることなく、犯人は逃走した。

警視庁はこれまでに延べ 21 万人以上の捜査員を投入。だが、発生時間の前後に現場の周辺で目撃された不審な人物や車両など複数の証拠はいまだ特定されていない。当初、拳銃を使っていたことから暴力団関係者も捜査対象とされ、2009 年には「中国籍の男性が実行犯を知っているかもしれない」と証言も出たが、捜査は難航している。

事件の被害者のひとり、矢吹恵さんの家族が入会する殺人事件被害者遺族の会「宙の会」で支援する、元警視庁の土田猛さんは、会として「DNA 捜査」に期待する。現場の事務所の灰皿には、遺留品として 11 本の吸い殻が残されていた。

「今は DNA 型の採取や利用、保管や消去などを定めた法律はなく、個人識別（逮捕後に採取して本人か確認するなど）の範囲である指紋型の照合などにとどめられています。しかし、DNA 型からは、髪色から病歴をはじめ属性（性別・年齢・目の色といった身体的特徴）なども解明できます。

吸い殻は容疑者のものかは不明ながら、DNA 型まで特定できれば何かの手がかりにはな

るかもしれない。米国では似顔絵作成にも活用されて多くの事件を解決に導いています。20年以上の長期未解決事件となると、犯人に関する情報が上がっても信憑性を捜査するのが困難で、科学捜査には、ご遺族も期待されていると思う」

現在、DNA は国家公安委員会規則や警察庁通達によって「個人識別」のみで運用されている。同会は今年3月、国家公安委員会宛てに「DNA 捜査に関する法制化」要望書を提出。DNA 型の捜査実現に向けて、働きかけている。

■高校生だった矢吹さんの夢

矢吹さんが通っていた私立桜美林高校（町田市）では、親友や教諭たちがつくった「銃器根絶を考える会」が、毎年文化祭では後輩たちに銃社会の現状を伝えるパネル展示も行っている。同校でキリスト教の牧師と教員を務める同級生の木村智次さんも、かつて取材にこう答えている。

「母校の教員になった同級生として、生徒たちの先輩である矢吹さんの死を私が伝えなければ、という使命感があるんです」

生徒たちには、事件の概要や「元気でさえいてくれれば良かった」という矢吹さんの母親のコメントを紹介したりしている。

「矢吹さんは保育士になりたいという夢を持っていて、高校在籍中から、保育士になるためにピアノを習ったりしていたと聞きます。そうして早いうちから、夢に向かって努力をする人でした。もし事件に巻き込まれていなかったらいい保育士さんになっていたんでしょうね。そうやって夢をもっていた同級生が何の罪もないのに巻き込まれて亡くなってしまった。こんな理不尽なことありません。私が働いている間は、生徒たちにずっと伝えていくつもりです」

同校では今月22日、例年通り追悼礼拝が行われる。

事件の公的懸賞金は上限額が300万円。民間団体の私的懸賞金300万円もある。情報提供は八王子警察署（tel.042-621-0110=代表）まで。